

# 第3章 地域支援活動に関する国際交流

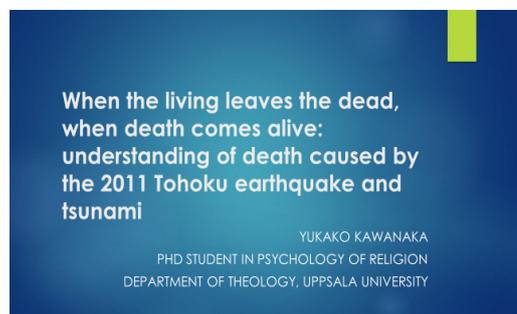
## 1. ウプサラ大学大学院生との交流会

地域支援プロジェクトとして、7月6日にスウェーデンより河中優郁子さんをお招きし、講演会と大学院生・教職員との交流会を鹿児島大学内で行いました。河中さんは、ウプサラ大学大学院神学研究科に在籍されており、宗教心理学を専門として研究されています。現在「東日本大震災後の人生の意味の再構築、心理社会的幸福及びレジリエンスに関する宗教心理学研究」をテーマとして、深刻な損害を被った地域で被災者のために働いてきた宗教者たちや宗教団体による救援活動に着目されて、福島や仙台に滞在されながら、東北大学を拠点として調査をすすめておられます。

まず、研究の目的である人生の意味の再構築や幸福を考えるにあたって、活用できる心理的社会的理論からスタートされ、災害によって脅かされる私たちの世界観や実存の意味について、わかりやすく説明されました。

調査研究の具体的な目的とリサーチクエスションとは、(1) 深刻な被害を被った地域にて宗教者たちと宗教団体によって行われた活動を把握、(2) 被災地の実存的並びに心理社会的資源について調べ識別する、(3) 意味の構築 (meaning-making)、幸福、レジリエンスに関連して個々人とコミュニティの両方のレベルで宗教と宗教者が果たす役割を探求することで、被災者を支援する宗教者の方たちとコンタクトをとり、インタビューのために国内を回っておられるとのことでした。そして、今も仮設住宅で暮らす被災者の方たちの支えになっている宗教者の活動や繋がりについて教えて頂きました。

被災地で直接声を聞き、心に刻まれたいろいろな形の人間の「祈り」について深く考えさせられる講演となりました。



当日のスライドと交流会の様子

## 2. ウプサラ大学大学院訪問と研究交流

### (1) ウプサラ大学大学院神学研究科・CRS 訪問

2016年2月に、プロジェクトスタッフの稲谷と小澤がスウェーデンのウプサラ大学を訪問し、国際交流を行いました。7月に鹿児島大学にお招きしたウプサラ大学大学院神学研究科の河中優郁子さんのご案内で、ウプサラ大学大学院神学研究科および、宗教と社会研究センター（CRS: Centrum för forskning om religion och samhälle）を見学しました。また、ウプサラ大学大学院神学研究科のValerie DeMarinis 教授とお会いし、ウプサラ大学が中心となって進めている学際的研究プロジェクトであるIMPACTチームの研究成果についての説明を受けました。地域支援プロジェクトの内容をお伝えする中で、Public Mental Health への貢献にむけた研究協力の可能性について議論しました。



ウプサラ大学 Valerie DeMarinis 教授（右）  
ウメオ大学 Wolfgang Ruts 名誉教授（左）

### (2) ウプサラ大学でのセミナー発表

同じくウプサラ大学において開催された、大学院神学研究科とIMPACTチームの合同セミナーにおいて、研究発表を行いました。小澤は「Clinical psychology and out-of-home care for children in Japan（日本における社会的養護と臨床心理学）」、稲谷は「Association of grandparenthood and social support with Psychological well-being in older Japanese adults（高齢者の心理的ウェルビーイングとソーシャルサポート—孫との関係及び虚弱な高齢者への支援—）」のタイトルでそれぞれのテーマについて報告しました。

当日は、ウプサラ大学のValerie 教授や博士課程の大学院生に加え、精神科医であるWolfgang Ruts ウメオ大学名誉教授もセミナーに参加し、議論に加わりました。日本における児童から高齢者までの生涯発達に関する支援状況についてお伝えし、スウェーデンや諸外国におけるwell-beingの視点や、コミュニティベースの心理支援や精神医学的支援の重要性について共有しました。



セミナー発表の様子



発表後の交流会

## 3. バリデーション・ワークショップ

地域支援プロジェクトでは、認知症の方とのコミュニケーション法であるバリデーションに関するワークショップを九州バリデーション研究会と共催にて開催いたしました。バリデーションの第一人者である Vicki de Klerk-Rubin 先生、通訳に飛松美紀さんをお招きして、午前中は医療職、心理職、本研究科大学院生および修了生を対象に、午後からは福祉・介護職の方を対象に実施しました。参加した方や大学院生はバリデーションの技法だけではなく認知症の方の支援に向かう姿勢や共感について改めて考える機会となったようです。

### プログラムの概要

- ・海外の認知症ケアや医療におけるバリデーション法の導入
- ・バリデーション法の理論と人間観
- ・バリデーション法の実践とテクニック



講師の Vicki de Klerk-Rubin 先生

### 認知症の方とのコミュニケーション法、バリデーションの理論と実践を学ぶ

#### ワークショップ・プログラム内容

- ・海外の認知症ケアや医療におけるバリデーション法の導入
- ・バリデーション法の理論と人間観
- ・バリデーション法の実践とテクニック

#### 講師

ビッキー・デクラーク・ルビン 先生(通訳 飛松美紀氏)

バリデーションマスター。トレーニング協会ヨーロッパ支部代表。ヨーロッパ各地でバリデーションの教育指導に携わり、日本でも2003年からセミナー、資格コースを担当し、高い評価を得ている。著書「認知症ケアのバリデーション・テクニク」より深いかわりを求める家族・介護者のために」受賞(米国)。オランダ・ハーグ在住。



平成27年 **10月7日(水)**

午前の部 **10:30~12:30**

対象：医療職(医師・看護師・OT・PT)、心理職、鹿児島大学大学院臨床心理学研究科院生および修了生

午後の部 **14:00~16:00**

対象：福祉・介護職(認知症ケア専門士ポイント申請中)

参加定員 午前・午後の部 **それぞれ70名ずつ**

参加費：一般4,500円 本研究科修了生4,000円

場所：鹿児島大学附属図書館5Fライブラリーホール

主催：九州バリデーション研究会

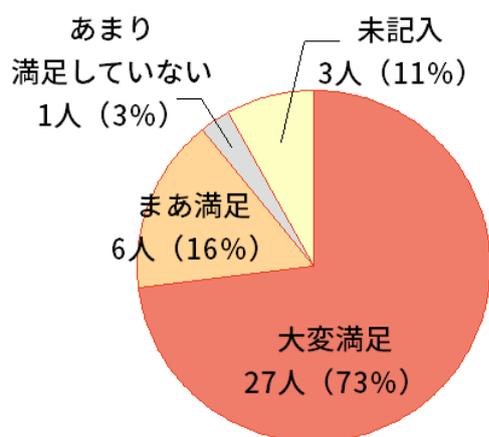
共催：鹿児島大学大学院臨床心理学研究科

問い合わせ・申込みに関しては裏面をご確認ください

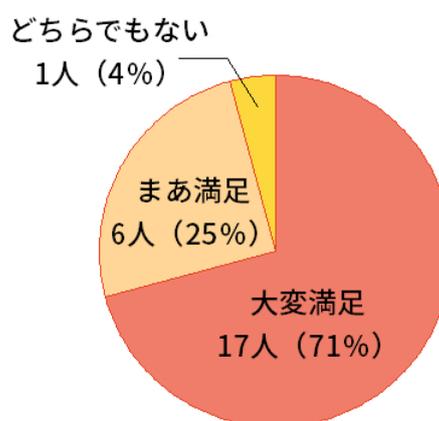
### ワークショップの開催案内



ワークショップ当日の様子



ワークショップの満足度（一般参加者）



ワークショップの満足度（大学院生）

## 【一般参加者の感想】

- ・今の介護は、その方の気持ちや感情にまでは、いきついていません。作業のような毎日に感じることもあります。参加してみて改めて認知症の方を支援する私たちが、人として変わらなければいけないと思った。
- ・初めは、難しそうと思い不安もありましたが、認知症の方の気持ちや動作等いろんな事を知り、相手の立場になって表情や声かけ、聞く姿勢とその方にあっただ対応を次にしていきたいと思った。

## 【参加大学院生の感想】

- ・バリデーションの考え方、スキルは、認知症以外の方にも、基本的な部分で共通し、対応する際のヒントになることがわかりました。ビッキー先生から、直接、お話を伺う貴重な時間を頂け、参加して良かったです。
- ・認知症の方の言動の背景、背後にあるニーズを、理解する為に本人の言葉から引き出す、テクニックなど、そのことを意識して接するだけでも、これまでより、相手を理解しよう、わかりたいという気持ちをもって、接することが出来そうです。